

foxit



Quick Guide

Foxit[®] PhantomPDF[™]

For Windows

Microsoft[®] Partner

Gold Independent Software Vendor (ISV)

Foxit® PhantomPDF™ Quick Guide

このクイックガイドでは、Foxit PhantomPDF の主な機能を簡単にご紹介します。製品についての詳しい説明は、ユーザーマニュアルをご参照ください。

はじめに

Foxit PhantomPDF のインストール

システム要件

オペレーティングシステム

- Windows 7 (32-bit & 64-bit)
- Windows 8 (32-bit & 64-bit)
- Windows 8.1 (32-bit & 64-bit)
- Windows 10 (32-bit & 64-bit)

- Microsoft Office® 2007 以降 (一部の PDF 作成関連機能)
- IE10 以降 (サブスクリプション機能)
- Citrix Ready® 認定 (Citrix XenApp® 7.13)

推奨する最低動作環境

- 1.3 GHz 以上のプロセッサ
- 512 MB RAM (1 GB RAM 以上推奨)
- 2GB の HDD 空き容量
- 1024*768 以上のスクリーン解像度

インストール方法

Foxit PhantomPDF のインストーラーは MSI 形式です。ご利用のコンピューターにセットアップファイルを用意して、以下の操作を実行してください (Business エディションによる例):

1. セットアップファイルをダブルクリックして、セットアップウィザードを開きます。「次へ」をクリックして先に進みます。
2. Foxit PhantomPDF は著作権により保護されています。使用するには、使用許諾契約に同意が必要です。「使用許諾契約書に同意します」にチェックすることで、先に進むことができます。

3. Foxit PhantomPDF のインストールについて、2つのセットアップタイプから選択します。また、インストール先の変更も可能です。

標準 – すべてのプログラム機能をインストールします。

カスタム – インストールするプログラム機能を選択することができます。

4. 「標準」を選択した場合、「インストール」をクリックするだけです。「カスタム」を選択した場合は、以下に従って進めてください
 - A) 「参照」をクリックしてプログラム機能のインストール先を変更することができます。
 - B) 「ディスク使用量」をクリックすると、選択した機能をインストールするために利用可能なディスク領域をチェックすることができます。
 - C) インストールしたいオプションをチェックし、「次へ」をクリックして進みます。
 - D) セットアップ時に実行する追加タスクを選択してください。「インストール」をクリックしてインストールを開始します。
5. インストールが完了すると、ダイアログ画面に Foxit PhantomPDF のインストールが完了したことが表示されます。「Foxit PhantomPDF 起動」をチェックすることでインストール終了後、直ぐにアプリケーションを起動することができます。「完了」をクリックしてセットアップを終了します。

コマンドラインでのインストール

コマンドラインを使用してアプリケーションをインストールすることも可能です:

```
msiexec /Option <Required Parameter> [Optional Parameter]  
[PROPERTY=PropertyValue]
```

msiexec.exe の必要なパラメータやオプションパラメータについての詳細は、コマンドラインに “msiexec” を入力するか、またはMicrosoft TechNetヘルプセンターを参照してください。

Foxit PhantomPDF MSIインストールパッケージのパブリックプロパティ

Foxit PhantomPDFインストールプロパティは、標準の MSI パブリックプロパティを補足します。アプリケーションのインストールにおいて、システム管理者の優れた制御を可能にします。

標準のパブリックプロパティの完全なリストは、次を参照してください:

[https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa370905\(VS.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa370905(VS.85).aspx)

Foxit PhantomPDFのプロパティは以下の通りです:

ADDLOCAL <list of features> ADDLOCAL プロパティの値は、カンマで区切られた機能リストになっています。Foxit PhantomPDFのインストールのときにローカルディスクに作成され、利用されます。Foxit PhantomPDFのインストーラーは次の機能を設定します:

FX_PDFVIEWER - Foxit PDF Viewerとそのコンポーネントです。

FX_FIREFOXPLUGIN - このプラグイン一つでMozilla Firefox、Opera、Safari、そしてChromeブラウザ内でPDFファイルを開きます。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_EALS - Eastern Asian Languageを表示するためのモジュールです。このモジュールがなければEastern Asian Languageを正しく表示することができません。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_SPELLCHECK - タイプライター入力、およびフォーム入力での単語のスペルミスを見つけ、正しいスペルを提示してミスを訂正します。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_PDFA - PDF/A-1aおよびPDF/A-1b規格に準拠しているかを検証するためのモジュールです。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_OCR - スキャン作成、または画像をベースとしたPDF文書を、選択可能かつ検索可能にするモジュールです。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_CREATOR - システムに仮想プリンターであるFoxit PhantomPDF Creatorをインストールします。印刷可能な文書を便利に、かつ効率的に高品質なPDFに変換することができます。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。

FX_CONVERTTEXT - 右クリックメニューからサポートしているファイルをPDFファイルに変換したり、結合したりするShell Extensionです。この機能はFX_CREATORのインストールが必要です。

FX_CREATORWORDADDIN - ワンクリックでPDFを作成するMS Word ツールバーアドインです。この機能はFX_CREATORのインストールが必要です。

FX_CREATOREXCELADDIN - ワンクリックでPDFを作成するMS Excelツールバーのアドインです。この機能はFX_CREATORのインストールが必要です。

FX_CREATORPPTADDIN - ワンクリックでPDFを作成す

	<p>るMS PPTツールバーのアドインです。この機能はFX_CREATORのインストールが必要です。</p> <p>FX_CREATOROUTLOOKADDIN - ワンクリックでPDFを作成するMS Outlookツールバーのアドインです。この機能はFX_CREATORのインストールが必要です。</p> <p>FX_SE - Windows ExplorerとWindows Shellのプラグインです。この拡張によりWindows ExplorerでPDFサムネイルの表示、Windows OSとOffice 2007以降でPDFファイルのプレビューが可能です。この機能はFX_PDFVIEWERのインストールが必要です。</p> <p>FX_IFILTER – Foxit PDF IFilter は Windows 検索エンジンのプラグインです。迅速な PDF 文書の検索を支援します。</p> <p>FX_CONNECTEDPDF – ConnectedPDF 機能を提供するためのプラグインです。クラウドサービスを使用した PDF 文書の作成、共有、セキュリティ、トラッキング機能を含みます。</p>
INSTALLLOCATION	製品をインストールする場所を指定します。
MAKEDEFAULT	Foxit PhantomPDFを既定のPDFリーダーに設定します。デフォルト値は"1"です。
View_IN_BROWSER	Foxit PhantomPDFの設定により、ブラウザでPDFファイルを表示します。デフォルト値は"1"です。
DESKTOP_SHORTCUT	インストール時に、デスクトップにショートカットを作成します。デフォルト値は"1"です。
STARTMENU_SHORTCUT	インストール時に、スタートメニューにショートカットを作成します。デフォルト値は"1"です。
SETDEFAULTPRINTER	インストール時に、Foxit PhantomPDF Printerを既定のプリンターとしてインストールします。デフォルト値は"1"です。
LAUNCHCHECKDEFAULT	起動時に、Foxit PhantomPDFが既定のPDFリーダーであるかチェックします。デフォルト値は"1"です。
KEYPATH	ライセンスキーファイルを指定して、PhantomPDFのインストールフォルダーに保存します。
REMOVENEWVERSION	インストール時に、Foxit PhantomPDFの新しいバージョンを強制的に上書きします。デフォルト値は"1"です。
CLEAN	アンインストールのコマンド実行時に、PhantomPDFのすべてのレジストリデータと関連ファイルを削除します (ノート: これはアンインストールのためのコマンドです)。デフォルト値は"1"です。
AUTO_UPDATE	自動で更新のダウンロードとインストールをしない場合の値は"0"です; 自動で更新を確認し、更新がある場合にダウンロードしてインストールする場合の値は"1"です; 自

動で更新をインストールする場合の値は"2"です。デフォルト値は"1"です。

CPDF_DISABLE

設定値を"1"にすることでConnectedPDF機能を無効にすることができます。

EDITION

Foxit PhantomPDFのインストールするエディション (Standard、Business、Education) を指定します。

コマンドラインの例:

1. アプリケーションを"C:¥Program Files¥Foxit Software"にサイレントインストール :

```
msiexec /i "Foxit PhantomPDF.msi" /quiet INSTALLLOCATION="C:¥Program Files¥ Foxit Software "
```

2. Foxit PDF ViewerとFirefox Pluginをインストール :

```
msiexec /i "Foxit PhantomPDF.msi" /quiet ADDLOCAL="FX_PDFVIEWER, FX_FIREFOXPLUGIN "
```

3. セットアップ実行時にディスクCに保存されたライセンスキーファイルを使用して、アプリケーションをアクティベート

```
msiexec /i "Foxit PhantomPDF.msi" KEYPATH="C:¥fpmkey.txt"
```

4. Foxit PhantomPDF Printerをインストールしない :

```
msiexec /i "Foxit PhantomPDF.msi" ADDLOCAL=ALL, ADVERTISE="FX_CREATOR" /qn
```

Foxit PhantomPDF のアクティベーション

1. Foxit PhantomPDF をインストールすると、アクティベーションについてのダイアログが表示されます。既に Foxit PhantomPDF のライセンスを購入されている場合は、「**アクティベーション**」をクリックして、レジストレーションキーを登録してください。それ以外の選択肢として、「**今すぐ購入**」をクリックすると Foxit の Web サイトにアクセスして Foxit PhantomPDF のライセンスを購入することができます。また「**評価利用**」をクリックした場合は、14 日間の Foxit PhantomPDF の試用を開始します。期間終了後は、無償機能のみ継続して利用可能です。
2. 「**アクティベーション**」をクリックすると、レジストレーションキーの入力画面が表示されます。後で Foxit PhantomPDF を起動してから、**ヘルプ > アクティベーション** よりこの操作を実行することもできます。続行するにはボックスにレジストレーションキーのコードを入力して「**アクティベーション**」をクリックします。

3. (オプション) 別途ユーザー名の設定されたライセンスファイルを使用しているの
なければ、ユーザー名の入力が必要です。入力してください。
4. アクティベーションに成功すると、メッセージが表示されます。「OK」をクリックし
てください。
5. 設定を反映させるため、アプリケーションを再起動してください。すぐに再起動する
場合は「OK」を、後で再起動する場合は「キャンセル」を選択してください。

Foxit PhantomPDF のアクティベーションの解除

別のマシンで Foxit PhantomPDF のアクティベーションを実行するため、現在使用してい
るマシンのアクティベーションを解除することができます。アクティベーションを解除し
ても、Foxit PhantomPDF Express として引き続き無償機能を利用することができます。
Foxit PhantomPDF のアクティベーションを解除するには、ヘルプ > アクティベーショ
ンの解除 を実行してください。

Foxit PhantomPDF のアンインストール

アンインストールの方法

以下のいずれか一つを実行してください:

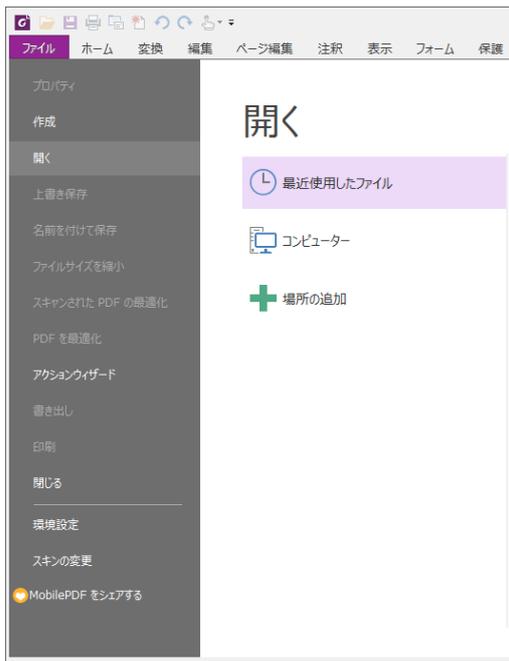
- スタートメニュー > すべてのプログラム > Foxit PhantomPDF > アンインストー
ル、と選択します。
- スタートメニュー > コントロールパネル > プログラムのアンインストール >
Foxit PhantomPDF を選択して「アンインストール」をクリックします。
- Foxit PhantomPDF インストールフォルダー内にある Uninstall アイコンをダブルク
リックします。既定のインストールフォルダーは次のようになります：
ドライブ名: ¥...¥Foxit Software¥Foxit PhantomPDF¥

Foxit PhantomPDF を使用する

- [ファイルメニュー](#)
- [スキンとインターフェース](#)
- [文書やオブジェクトの移動](#)
- [他のツールの使用について](#)
- [規格準拠の検証と作成](#)
- [Foxit PDF IFilter の統合](#)

ファイルメニュー

開く、上書き保存、印刷、アクションウィザード や他の基本ツールは、ファイルメニューを選択して使用することができます。「開く」をクリックすると、ローカルデバイスにあるファイルに加えて SharePoint、OneDrive、Google Drive などクラウドサービス上の PDF ファイルを開くことができます。文書のプロパティを確認する場合はファイルメニューの「プロパティ」を、アプリケーションの設定は「環境設定」を選択して実行できます。



スキンとインターフェース

Foxit PhantomPDF には、Classic、Black、Blue、Orange、Purple の 5 種類のスキンがあり、外観を変更することができます。スキンを変更するには、ファイル > スキンの変更 > お好みのスキンをリストから選択して実行します。

リボン形式のインターフェース

リボンは、タブバー上で分類されたツール群を表示するインターフェースです。一つのリボンは機能毎にグループ化して配置され、グラフィカルに表示される各機能のアイコンを使用した、大きく見やすいツールバーとして提供されています。Foxit PhantomPDF のリボンはタスク毎にグループ分けされており、頻繁に使用するコマンドがまとめて配置されています。複数のツールバーからコマンドを逐一選択する必要はありません。



(Business エディション)

● リボンの表示 / 非表示

ツールバー領域の右上にある  または  をクリックして、リボンの表示と非表示の切り替えを行なうことができます。

文書の移動、およびテキストと注釈の選択



「手のひら」ツール、「テキスト選択」ツール、「注釈選択」ツール、「ズーム」ツールの4種類のツールは、PDFのナビゲーションや対話処理で最も頻繁に使用するツールです。手のひらツールはPDFのページ送り、リンクのクリック、フォーム入力、マルチメディアファイルの実行等に使用します。注釈選択ツールは、複数の注釈を選択して移動、リサイズ、整列などに使用します。テキスト選択ツールを使用すると、PDFのテキストを選択してコピー、マークアップの追加、しおりの作成が可能です。ズームツールを使用すれば簡単にページの拡大や縮小表示ができるので、より便利にPDFを閲覧することができます。

他のツールの使用について

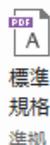


ホームタブ (Business エディション)

別のメニューにある、またはリボン上の別のボタンをクリックすると、クリックしたツールに切り替わります。また、ツール上にポインターを移動させると、ヒントが表示されます。例えばホームタブには、ツール、表示、編集、注釈、ページ編集、変換、保護のグループがあり、これらのテキストや注釈のツールを使用して、PDFファイル内の移動や対話処理の他、ページの拡大縮小、ページコンテンツの編集、注釈の操作、文書のページ操作、OCRの実行、署名などの基本的な操作を行うことができます。

使いたいツールをすばやく検索するには、メニューバーの  マーク右のツール検索ボックスをクリック (または **Alt + Q**) して、ツール名や操作を文字入力してください。Foxit PhantomPDF は該当するツールの候補を表示しますので、ツールを選択してその機能を実行することができます。

規格準拠の検証と作成



Foxit PhantomPDF の **標準規格** ツールを使用することで、PDF の規格を指定して業種や目的に応じた PDF 文書を得ることができます。Foxit PhantomPDF は標準規格である PDF/A、PDF/E、PDF/X についての規格準拠の検証と、その規格での文書作成が可能です。検証を行なうには、**準拠**グループのボタン  をクリックして、ダイアログにて検証する規格を選択し、「**解析**」または「**解析してフィックスアップ**」ボタンを選択します。Foxit PhantomPDF *Business* であれば文書を PDF/X、PDF/A、PDF/E の規格に準拠した PDF として作成することも可能です。

Foxit PDF IFilter の統合

Foxit PhantomPDF のセットアップには、デスクトップ用 Foxit PDF IFilter が含まれています。デスクトップシステム上で大量の PDF 文書のインデックスを作成することができ、それらの文書に対しての迅速な全文検索を可能にします。Foxit PDF IFilter は、Foxit PhantomPDF のインストールフォルダー内にインストールされます。

文書の閲覧

指定ページへの移動

- 表示タブの **ページナビゲーション**グループ、またはステータスバーにある「**最初のページ**」、「**最後のページ**」、「**前のページ**」、「**次のページ**」をクリックして、PDF ページを移動します。また、ページ番号を入力して指定のページに移動することもできます。「**前の画面**」をクリックすると前に表示した画面に、「**次の画面**」をクリックすると次に表示した画面に移動します。
- しおりを使用して設定された場所に移動するには、ナビゲーションペイン左側にある **しおりボタン**  をクリックしてしおりを表示します。しおりをクリック、またはしおりを右クリックして「**指定の場所へ移動**」を選択することで、設定された場所に移動します。プラス(+)/ マイナス(-) ボタンをクリックすることで、しおりの階層を展開 / たたむことができます。

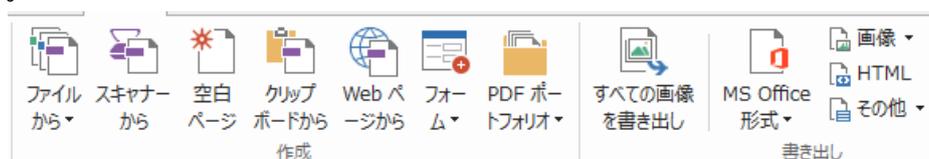
2. 「ページ全体を表示」をクリックすると、ページ全体を表示します。「幅に合わせる」は画面の幅にページ表示を調整します。「描画領域の幅に合わせる」はコンテンツ表示のある領域のみを表示するよう調整します。「100%表示」は実際のサイズでページを表示します。
3. 右回転 / 左回転 をクリックすると、それぞれ時計回り、反時計回りに90度ごとページ表示を回転します。

表示タブの支援グループでは以下のツールを選択できます。

1. マーキーズームツール  を選択してページをクリックすると、ページ全体が拡大されます。クリックとドラッグで範囲を指定するとその領域が拡大されて表示されます。
2. ルーペツール  を選択してポインターを任意の位置に移動すると、その箇所がルーペツールダイアログ内で拡大または縮小して表示されます。
3. 拡大鏡ツール  を使用すれば、ポインターの領域を簡単に拡大して表示することができます。

作成と書き出し

Foxit PhantomPDF は PDF の作成に関して、.dwg や.dxf 形式のファイルから 3D PDF ファイルを作成するなど、多くの機能を提供しています。変換タブより、PDF を直接指定したファイルから作成、空白ページを作成、Web ページから作成、スキャナーから作成、クリップボードから作成することができます。また、PDF ポートフォリオを作成することができる他、PDF を画像や MS Office 形式、HTML 形式などに書き出しすることができます。



作成、書き出しグループ

- [PDF のワンステップ作成](#)
- [Microsoft Office からの PDF 作成](#)
- [Microsoft Visio からの PDF 作成 \(Business のみ\)](#)
- [印刷操作による PDF 作成](#)
- [Print to Evernote を使用した PDF 作成](#)
- [スキャナーを使用した PDF 作成](#)
- [Web ブラウザーからの PDF 作成](#)
- [PDF ポートフォリオの作成](#)
- [PDF のすべての画像の書き出し](#)
- [PDF を画像、MS Office、HTML、その他の形式に書き出し](#)

PDF のワンステップ作成

以下の方法で PDF をワンステップで作成できます：

- 変換したいファイルを Foxit PhantomPDF のデスクトップアイコン  にドラッグ
- Foxit PhantomPDF を起動している場合は、アプリケーションのウィンドウに直接ファイルをドラッグ
- 変換したいファイルのアイコンを右クリックして、「Foxit PhantomPDF で PDF に変換」を選択して実行

また Foxit PhantomPDF は、**ファイル > 作成**のツールや **変換**タブのツールを使用して、空白ページやクリップボードに保存されたデータ、Web ページからすばやく PDF を作成したり、既存のファイルから PDF フォームを作成したりすることも可能です。Web ページから作成する場合は、Web サイト全体からの作成や Web サイトのレベル数の指定による作成の選択、タイムアウトやリンクなどについての詳細オプションを設定することができます。

Microsoft Office からの PDF 作成

Foxit PhantomPDF を使用すれば、Microsoft Office のアプリケーション (Word、Excel、PPT、Outlook) から、しおり、リンク、そしてアウトライン等の情報を保持して品質の高い PDF を安全に作成することができます。

また、Microsoft Word の **差し込み文書** 機能で作成された電子メールや定型のレター、ラベル等のひな形となる文書と対応するデータを使用して、個別に差し込み印刷で PDF を出力することもできます。必要に応じて作成された PDF を電子メールに添付して各人に送信するよう設定することも可能です。

Microsoft Visio からの PDF 作成 (Business のみ)

Microsoft Visio で PhantomPDF Creator Plugin を使用して、Visio 形式のファイルからすばやく簡単に PDF を作成できます。設定に応じた文書のプロパティ情報を保持する PDF を作成します。

印刷操作による PDF 作成

1. 該当のアプリケーションで、対象のファイルを開きます。
2. メインメニューより、**ファイル > 印刷** を選択します。
3. プリンターリストから「Foxit PhantomPDF Printer」を選択して印刷を実行します。

Print to Evernote を使用した PDF 作成

Foxit PhantomPDF をインストールすると、プリンターとして新しく「Print to Evernote」

が追加されます。この機能を使用して、Foxit PDF Printer と同じように PDF を作成し、そのファイルを Evernote に添付ファイルとして送信することができます。

Print to Evernote を使用して PDF を作成するには、以下の手順を実行します：

1. Evernote アプリケーションをインストールし、Evernote のアカウントを作成します。
2. PDF に変換したいファイルを開き、**ファイル > 印刷 > Print to Evernote** と選択します。
3. 必要な設定を行ない、**印刷** を実行します。作成する PDF のファイル名と保存場所を指定します。
4. PDF ファイルが作成され、Evernote に添付されていることを確認できます。

スキャナーを使用した PDF 作成

Foxit PhantomPDF は紙の文書をスキャンして、PDF をダイレクトに作成できます。設定のカスタマイズや事前に設定したプリセットを使用して、スキャンした文書を PDF へ直接変換することが可能です。

設定をカスタマイズしてスキャンした紙の文書から PDF を作成するには、以下の方法があります：

- (1) **ファイル > 作成 > スキャナーから > スキャナーから...** をクリックする
- (2) **変換 > 作成 > スキャナーから** を選択する
- (3) **ホーム > 変換 > スキャン** を選択する

プリセットを使用してスキャンした紙の文書から PDF を作成するには、**ホーム > 変換 > スキャン** をクリックし、設定したプリセットを選択して実行します。

Foxit PhantomPDF は、スキャナーからの PDF 作成時や、既存のスキャン作成した PDF、または画像をベースとした PDF に対して、**ファイル > スキャンされた PDF の最適化** を実行してサイズの最適化を行うことができます。

WEB ブラウザーからの PDF 作成

Foxit PhantomPDF は Google Chrome、Internet Explorer、Firefox のツールバーにある

Foxit 変換ツール  を使用して Web ページから PDF を作成できます。ワンクリックで表示している Web ページから新しい PDF として作成したり、作成した PDF を既存 PDF ファイルに追加、または電子メールに添付して送信したりできます。

PDF ポートフォリオの作成

Foxit PhantomPDF は、既存のファイルやフォルダーから新しく PDF ポートフォリオを作成することができます。**変換タブ > 作成グループ > PDF ポートフォリオ > 新しい PDF ポートフォリオを作成** より実行します。また、空の PDF ポートフォリオを作成してからファイルやフォルダーを追加するには、**空の PDF ポートフォリオを作成** を選択し

ます。

PDF のすべての画像の書き出し

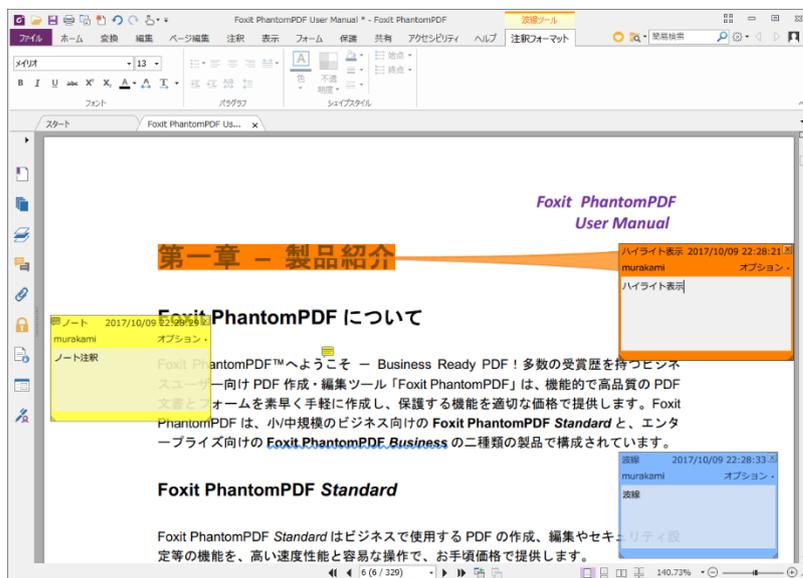
Foxit PhantomPDF は「すべての画像を書き出し」をクリックして、文書内の画像を一つずつ分け、すべて書き出すことができます。実行するには、**変換タブ > 書き出しグループ > すべての画像を書き出し** をクリックします。書き出しを実行する前に、**画像を書き出し** ダイアログボックスから設定を行うことができます。

PDF を画像、MS Office、HTML、その他の形式に書き出し

1. **変換タブ**をクリックします。
2. **画像、MS Office 形式、HTML、その他**ボタンを選択して、PDF ファイルを指定の形式に書き出します。
3. **名前を付けて保存**ダイアログの「**設定**」を選択してダイアログを開き、ページ範囲とレイアウト設定を行うことができます。そして「**言語設定**」ボタンをクリックし、書き出す言語を設定します。

注釈

Foxit PhantomPDF はコメントツールやテキストマークアップツール、描画ツールを使用して、紙面のように PDF ファイルに注釈や図形を書き加えることができます。追加した注釈は、便利にレビューできるように自動的に一覧にまとめて書き出すこともできます。

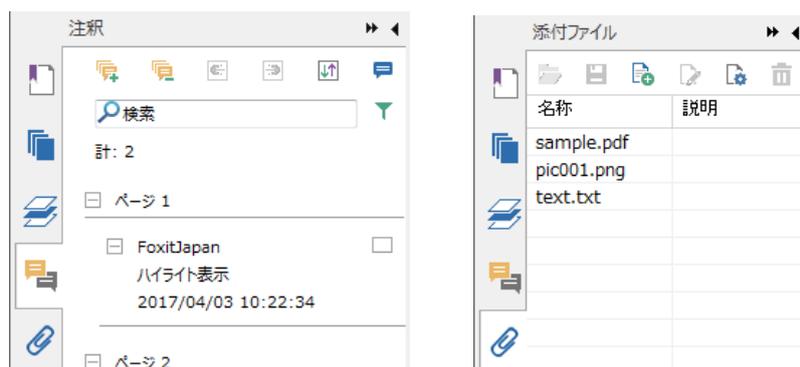


手のひらツール[👤]、注釈ツール[👉]、対応する注釈のツールを使用して注釈を選択すると右クリックメニューでプロパティの設定やステータスの設定、注釈コメントへの返信などを実行できます。また「注釈の管理」グループにあるツールを使用して注釈データの読み込みと書き込み、注釈の一覧の作成ができます。

ノート: ナビゲーションペインにある 3D コンテンツナビゲーションパネルのツールを使用して、PDF ファイル上の 3D コンテンツの表示とナビゲーション、注釈ができます

注釈と添付ファイルの確認

Foxit PhantomPDF は、PDF ファイル内のすべての注釈や添付ファイルを一覧表示して簡単に参照できます。これらは初期状態では、PDF 文書を大きく表示できるよう非表示になっています。これらを表示するには、左側のナビゲーションペインにある注釈ボタンや添付ボタンをクリックしてください。



編集



編集タブ (Business エディション)

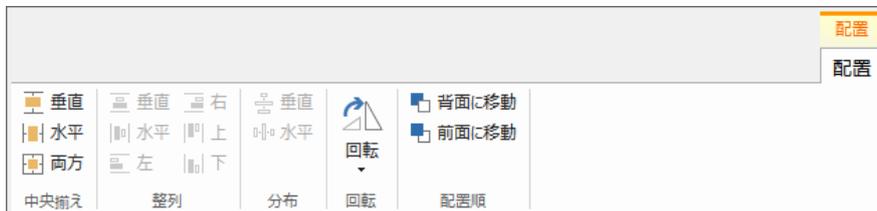
Foxit PhantomPDF は、リンクの追加、ファイル添付、画像の追加、マルチメディアファイルの追加と再生など一般的な編集機能、そしてレイヤー編集、検索と置換、PDF の最適化などその他の編集機能を使用して、簡単に PDF をカスタマイズできます。また、Foxit PhantomPDF は高度編集機能を使用して、オブジェクト(テキスト、画像、パス、シェーディング)の追加と編集が可能です。これらの機能には、フォント設定(フォント、フォントサイズ、色、下線など)、パラグラフ設定(左揃え/中央揃え/右揃え、文字間隔、文字の水平方向倍率、行の間隔など)、スタイルの設定、そしてオブジェクトの分割、結合が含まれます。

テキスト編集ツールやオブジェクト編集ツールを選択して、テキストやオブジェクトをクリックすると「配置」タブが表示され、さらに多く編集機能を使用できます。

- **オブジェクトの追加** – テキストを追加 、画像を追加 、シェイプを追加  ツールを選択して、PDF にオブジェクトを追加し、必要に応じた変更を行うことができます。
- **パラグラフ編集** – テキストを編集ツール  を使用して、編集するパラグラフを選

択するか、またはテキスト選択ツールでテキストを選択し、右クリックしてメニューよりテキスト編集を選択します。テキストの改行は「Enter」キーで行います。テキスト入力中にパラグラフボックスの端まで入力すると、テキストは自動的に折り返されます。また、パラグラフボックス内のテキストは自動で改行位置が調整され、必要に応じてボックスは自動拡張します。

- **オブジェクト編集** – オブジェクトを編集ツールを使用して、編集するオブジェクトを選択し、テキストオブジェクトのフォント、フォントサイズ、色、その他の変更が可能です。また、選択オブジェクトの移動、リサイズ、削除、回転を実行できます。画像、パス、シェーディングオブジェクトの編集時は、対応する「フォーマット」タブが表示されます。
- **クリッピング** – 選択オブジェクトに、指定したシェイプのクリッピング効果を設定します。



オブジェクトの配置タブ

- **配置** – PDF ファイルのコンテンツの整列や中央配置が可能です。
- **リフロー編集** – リフロー編集をクリックすると、ワープロのようにページ範囲を超えたコンテンツを自動で次ページに送るリフロー編集モードで文書を編集できます。

ヒント: オブジェクト編集ツールで、オブジェクトを右クリックすることで、より多くの機能を実行できます。

ページ編集



ページ編集タブ (Business エディション)

Foxit PhantomPDF は、ページ編集タブを使用して、ページの挿入/ 削除/ 移動/ 抽出、文書の分割、ページの統合、ページの再配置、ページアウトラインの作成ができます。このタブでは、透かし/ 背景/ ヘッダー/ フッター/ 通し番号などの設定も行うことができます。また、ページサムネイルパネルでドラッグ&ドロップによるページ順の変更や、異なる文書間でのページ編集が可能です。ページサムネイルをウィンドウの外にドラッグすることで、新しい PDF ページとして抽出することもできます。

フォーム

PDF フォームは情報を受け取り、送信するのに合理的な手段です。Foxit PhantomPDF を使用して、フォームへの入力、リセット、フォームの作成、保存、送信などを行うことができます。

- [PDF フォームへの入力](#)
- [フォームへの注釈](#)
- [フォームデータの操作](#)
- [フォームの作成と編集](#)
- [フォーム認識](#)
- [計算順序の設定](#)
- [JavaScript の実行](#)

PDF フォームへの入力

Foxit PhantomPDF はインタラクティブ PDF フォーム (Acro フォームと [XFA フォーム](#)) およびノンインタラクティブ PDF フォームをサポートしています。インタラクティブフォームへの入力は、手のひらツール  で行います。ノンインタラクティブフォームへの

入力は「タイプライター」ツール  で行います。また、「フォームを自動認識」ツール  を使用してフォームの自動認識を実行してから、手のひらツールでフォームに入力する方法もあります。

Foxit PhantomPDF は、すばやく簡単に PDF フォームを入力できるオートコンプリート機能をサポートします。フォーム入力の履歴を保存し、以降のフォーム入力の際に、以前の入力内容に基づいて予測される候補をポップアップメニューに表示して、ユーザーの入力を支援します。

ノート: フォーム入力でオートコンプリートを使用するには、**ファイルメニュー > 環境設定 > フォーム** と操作し、**オートコンプリートを有効にする** をチェックしてください。また、「履歴のクリア」の実行もできます。

フォームへの注釈

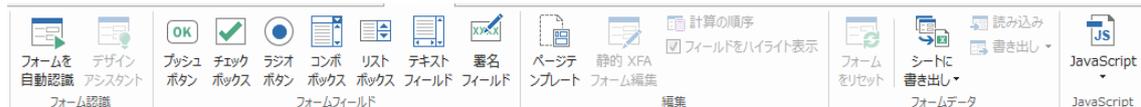
他の PDF ファイルと同様、PDF フォームに注釈を追加することができます。ただし、フォームに注釈を追加できるのは、フォームの作成者が注釈の追加を認めている場合に限りです。参照: [注釈](#)

フォームデータの操作

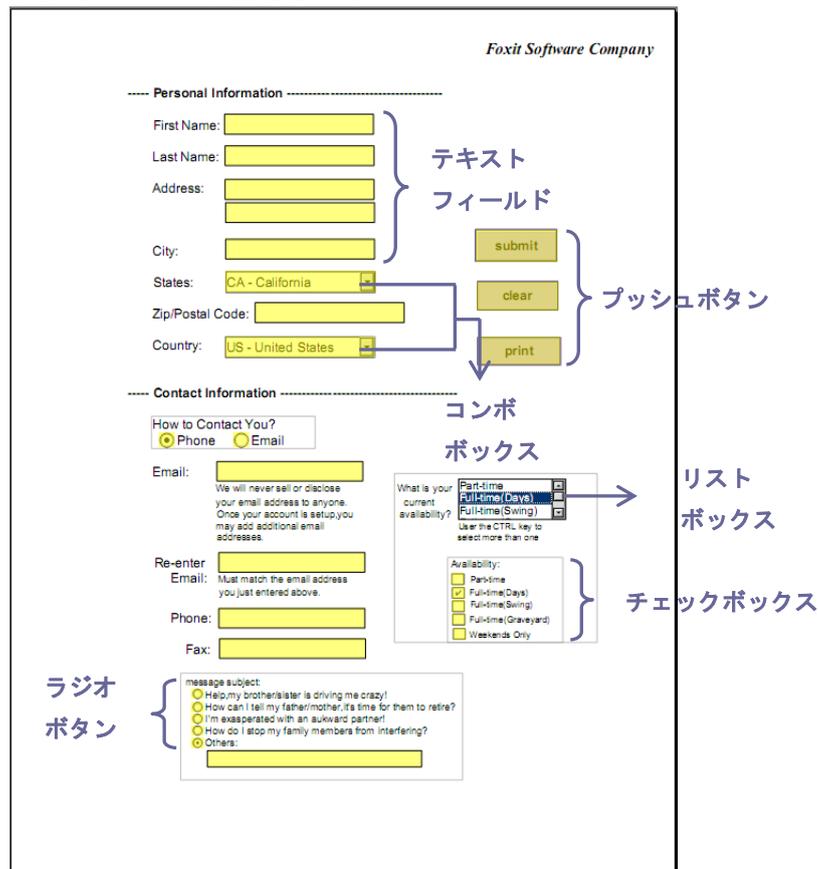
フォームデータの読み込みと書き出しは、**フォームデータグループの読み込みボタン**  または **書き出しボタン**  を使用して行います。この機能は注釈データの読み込み

と書き出しに似ています。また、書き出したフォームデータを既存の CSV ファイルに追加したり、複数の PDF フォームデータをまとめて CSV ファイルに出力したりすることも可能です。しかしながらこの機能は、インタラクティブ PDF フォームにのみ対応しています。また、Foxit PhantomPDF はフォームデータをリセットするための **フォームをリセット** の機能をサポートしています。さらに Foxit PhantomPDF は Ultraform テクノロジーを使用した PDF フォームに対し、フォームデータ情報を含む 2D バーコードを生成して表示できます。

フォームの作成と編集



Foxit PhantomPDF を使用してインタラクティブフォームを作成することができます。プッシュボタン、テキストフィールド、チェックボックス、コンボボックス、リストボックス、そしてラジオボタンを追加し、プロパティを設定して、インタラクティブフォームを作成します。また、PDF ページをページテンプレートとして設定することもできます。Java スクリプトを使用するボタンを作成してページテンプレートに追加するなど、フォームを拡張していく場合に非常に役立ちます。

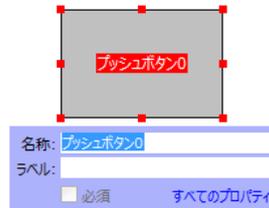


PDF フォームのサンプル

フォームフィールドの作成

ここではプッシュボタンを例にして説明します。フォームフィールドグループでプッシュ

ボタンを選択して、フォームにプッシュボタンを追加します。フォーム上のプッシュボタンの移動、サイズ変更、および削除を行う場合は、**注釈選択ツール**  を使用します。プロパティの設定により、ボタンのデザイン、アクション、動作、その他のフォーム設定を指定します。



ノート: 関連するラジオボタンは、同じフォームフィールド名を持ち、かつ異なる書き出し値を持たなくてはなりません。関連付けられたラジオボタンが切替えられ、正しい値がデータベースに収集されるには、この設定が重要です。

フォーム認識

Foxit PhantomPDF には半自動の PDF フォームデザイン機能が用意されており、容易にインタラクティブ PDF フォームを作成できるよう支援します。通常はフォーム作成をする場合、レイアウトを指定、またはファイルをスキャンするなどして都度、直接フォームフィールドを決定する必要があります。フォームを自動認識 は、インタラクティブ PDF フォームの作成を省力化する有力なツールです。

1. フォームを自動認識

Foxit PhantomPDF で PDF ファイルを開きます。フォームタブより、**フォームの自動認識**を選択します。Foxit PhantomPDF はファイルにあるボックス、下線、そして情報を入力する場所に見える箇所を探し、その箇所をテキストフィールド、またはチェックボックスに変換します。文書内のすべての入力可能なフィールドが認識され、ハイライト表示されます。

ノート: Foxit PhantomPDF で PDF が開かれたときにフォームを自動認識するには、**ファイル > 環境設定 > フォーム** にて「Foxit PhantomPDF での PDF 作成時にフォーム認識を実行」オプションを選択できます。

2. デザインアシスタントによるフォーム認識結果の検査と訂正

フォーム認識の結果は常に完全とは限りません。そのため、フォームのクリーンアップや不足しているフィールドの追加、既定のフォントの設定調整、その他一般的なエラーの訂正が必要です。デザインアシスタントと他のフォームフィールドツールを使用して、不足、またはエラーのあるフォームフィールドを作り直すことができます。デザインアシスタントツールは対応するフォームフィールドを検査して、自動で調整を行いません。ポップアップボックス上で直接名称を変更し、「すべてのプロパティ」をクリックして設定します。参照: [フォームフィールドの作成](#)。

ノート: ファイル > 環境設定 > フォーム にて「フィールド作成時にプロパティボックスを開く」オプションを選択できます。

計算順序の設定

フォームの中で 2 つ以上の計算を行う場合、計算式の順にフォームフィールドの値が計算されることが重要です。例えば、3 番目のフォームフィールドの値を計算するために、前の 2 つのフォームフィールドの計算結果を使用する必要がある場合、3 番目のフォームフィールドの値を正しく計算するためには、2 つのフォームフィールドの計算は先に終了

していなくてはなりません。フォームタブより、計算の順序ボタン  をクリックして、計算の順序を設定します。

JavaScript の実行

Foxit PhantomPDF を使用すると、しおり、ドキュメント、リンク、およびページに関連付けられたアクションを使用して JavaScript を呼び出すことができます。Foxit PhantomPDF には、JavaScript を実行するための 3 つの方法、文書レベル JavaScript、文書のアクション、JavaScript コンソールが用意されています: 文書レベル JavaScript は Foxit PhantomPDF を使用した文書レベルのスクリプトの作成およびアクセスができます。文書のアクションでは、文書全体に適用される文書レベルの JavaScript アクションを作成することができます。JavaScript コンソールは双方向性があり、JavaScript コードの一部をテストする場合や、オブジェクトのプロパティやメソッドを試行する場合に便利な機能です。



Windows ODBC によるデータベース接続

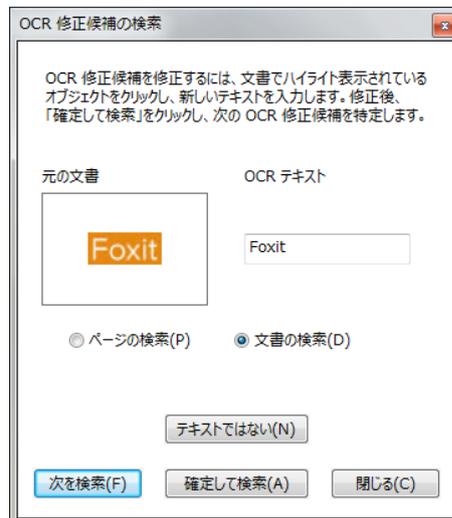
オプションのデータベースへの接続を行うプラグインは、Foxit PhantomPDF 内部ある JavaScript オブジェクトで、Windows ODBC (Open Database Connectivity) データソースへの接続を可能にします。そして開発者は、データベースに接続するためのドキュメントレベル JavaScript を作成し、データベースに対してデータの追加、更新、削除を行うことができます。現在、ADBC (Acrobat Database Connectivity) は Windows に限定される機能で、Microsoft 提供の Open Database Connectivity (ODBC) が必要になります。

OCR



光学文字認識 (Optical Character Recognition; OCR) と呼ばれるソフトウェアは、文字を印刷したイメージデータを、コンピューターで処理可能な文字データに変換するものです。OCR は紙の文書をスキャンして電子コピーを作成する際に最も一般的に使用されていますが、既存の電子文書 (画像データの PDF) を対象に実行することもできます。Foxit PhantomPDF は紙の文書をスキャンして直接 PDF に変換することができますが、スキャンにより作成した文書に対して OCR を実行し、文字情報を検索/ 選択可能にすることが可能です。

認識の修正 — Foxit PhantomPDF は OCR 結果の不明なテキストを探してマークすることができます。そして認識結果を編集し、OCR 結果の精度を改善することができます。**変換** タブにある **認識の修正** をクリックしてプルダウンメニューより、**最初の修正候補 / すべて修正候補** を選択します。OCR 修正候補の検索ダイアログに、元の文書のテキストと、OCR によるテキストが表示され、必要に応じて OCR テキストのボックスを直接編集できます。ページ上に赤枠で示されたオブジェクトが誤ってテキストと認識されたものであれば「**テキストではない**」をクリックします。「**次を検索**」をクリックすると次の修正候補に移動、「**確定して検索**」をクリックするとその修正候補を正しい文字と確定して次に移動します。



ヒント: Foxit PhantomPDF の **ホーム / 変換** タブには **クイック OCR** ツールが提供されており、スキャン作成されたすべてのページや画像を元に作成されたページに対して、ワンクリックするだけで前回の設定、または既定の設定でテキスト認識を実行することができます。

共有

Foxit PhantomPDF を使用して、ワンクリックで PDF を添付ファイルとして他のユーザーに送信したり、Evernote アカウントに送信したりできます。また、他のユーザーと内部サーバーや Foxit のサーバー上で文書を共有し、レビューコメントやフィードバックの注釈を収集することも可能です。SharePoint との連携機能を使用すれば、ユーザーは PhantomPDF 上の操作だけで容易に SharePoint の文書を共有し管理することができます。

- [文書のレビュー](#)
- [SharePoint との連携](#)

文書のレビュー

共有レビュー機能を使用して、文書の作成者は内部サーバーや Foxit Cloud 上で文書の共有ができます。レビューの参加要請を受け取った後レビュー担当者は、対象の PDF にすべての注釈機能を使用できるようになり、他のレビュー担当者が新しく注釈を追加すると通知されるようになります。またレビュー担当者は注釈への返信を行うことができます。レビューの依頼者と担当者からの注釈は自動的に内部サーバーや Foxit Cloud に収集され、一定時間ごとに Foxit PhantomPDF に同期されます。

電子メールレビューは、レビュー担当者が共用のサーバーにアクセスできないときや、依頼者が注釈のコラボレーションを必要としていないときに有用です。**電子メールレビュー**では、依頼者は PDF を添付ファイルとしてレビュー担当者に送信し、レビュー担当者から注釈の追加された PDF を受け取って注釈のみを閲覧できます。レビュー担当者は他の担当者からの注釈を確認せずに返信する、という進め方が可能です。

レビュー用に PDF を送信するには、**共有 > レビュー > 共有レビュー用に送信**、または**電子メール用に送信** を選択します (*Business* のみ)。

トラッカー機能は、リアルタイムで依頼者またはレビュー担当者のすべての注釈をトラックし、また、リアルタイムで管理します。

SharePoint との連携

Foxit PhantomPDF を使用すれば SharePoint 上にある PDF 文書を直接開いて編集や直接保存、チェックインやチェックアウトを実行することができるので、PDF 文書の作業の合理化を図ることができます。

保護と署名

Foxit PhantomPDF は、PDF コンテンツの強力な保護機能を提供します。PDF ファイルを暗号化し、セキュリティを設定して、不正なアクセスを防ぎ、詳細な操作の制限を設け、電子署名の適用などを行うことができます。



保護タブ (Business エディション)

- [文書のセキュリティ](#)
- [ポリシーの管理](#)
- [RMS 保護 \(Business のみ\)](#)
- [署名について](#)
- [罨消し \(Business のみ\)](#)
- [文書のサニタイズ](#)
- [RMS 保護された罨消し PDF の作成 \(Business のみ\)](#)

文書のセキュリティ

Foxit PhantomPDF は 3 種類のセキュリティコントロール機能を提供します。対象の PDF 文書にアクセスできるユーザーの制御、PDF 文書を手入手した場合に実行可能な操作の制御、そして PDF 文書を開くことができるユーザーの制御です。これらの制御を、パスワードによるセキュリティ、証明書によるセキュリティ、そして Windows Rights Management によるセキュリティで実現します。

パスワードによる保護: パスワードはアクセスを制限し、印刷、コピー、編集等の指定した操作を禁止します。

- **文書を開くパスワード:** 文書を開くときにユーザーに入力を求めます。
- **権限パスワード:** ユーザーがファイルを開いたときに、特定の機能をロックすることができます。例えば、文書の印刷や変更を禁止する等です。

証明書による保護: 証明書による文書の保護の優れた点は、作成者がユーザー毎に個別の権限設定を行えるところです。例えば、作成者があるユーザーにはフォームへの入力と注釈追加を許可し、別のユーザーにはテキストの編集とページの削除を許可する等です。

ファイルに設定されたセキュリティを確認するには、**ファイル > プロパティ > セキュリティ**と操作するか、または**保護タブにあるセキュリティプロパティ**  をクリックします。

ポリシーの管理

複数の PDF に同じセキュリティ設定を行うのであれば、セキュリティ設定をセキュリティポリシーとして保存して対応できます。セキュリティポリシーは、セキュリティの方法、暗号化パスワード、権限設定等を含んでいます。**保護タブにあるポリシーの管理**  を

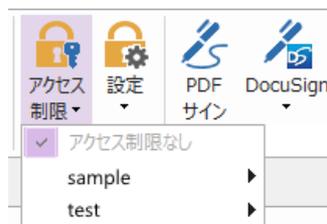
クリックして設定できます。

RMS 保護 (Business のみ)

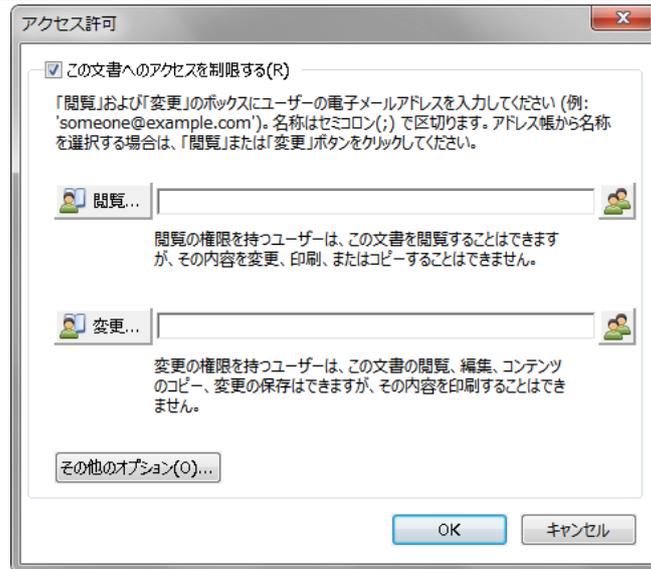
Foxit PhantomPDF の RMS プロテクターは、PDF 文書の保護とポリシーテンプレートの管理について、Microsoft Windows Server とシームレスに統合された環境を提供します。ユーザーが許可されているならば Foxit PhantomPDF を使用して、情報セキュリティの向上とコンプライアンス要件を満たす RMS により保護された文書を開くことができます。一旦インストールされると、Foxit PhantomPDF はすべての PDF ファイルに Microsoft AD RMS サービスを適用します。

RMS 暗号化

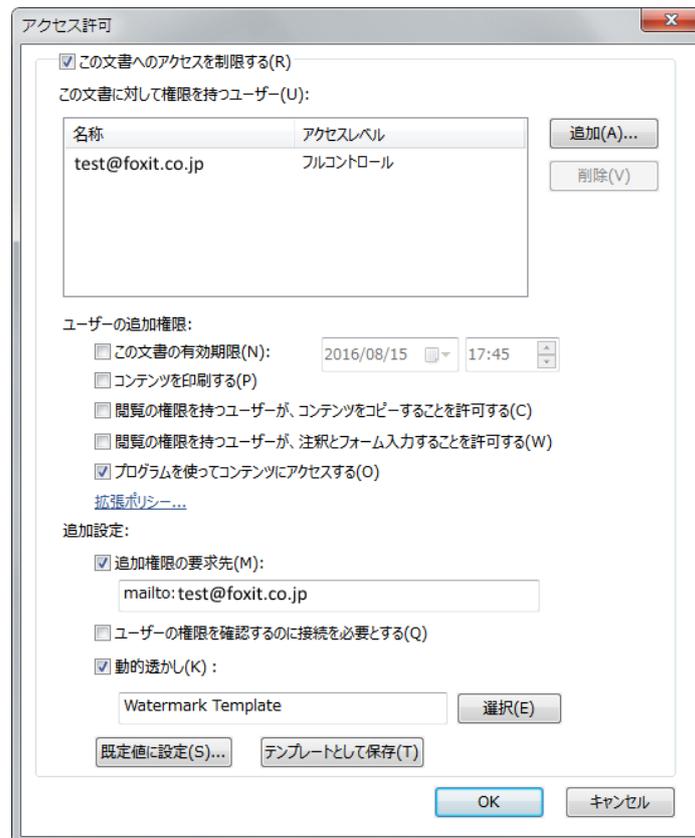
1. **保護 > AD RMS 保護 > アクセス制限** をクリックします。
2. RMS 暗号化に使用するテンプレートを選択します。カスタムテンプレートの作成も可能です。参照：[テンプレートの作成](#)



3. テンプレートを使用しない場合は、**アクセス制限** をクリックします。
 - RMS サーバーへの初回ログイン時は、アカウント名とパスワードを入力します。
 -  アイコンをクリックして、閲覧権限を与えるユーザーを追加します。
(Outlook メールクライアントを利用している場合は、 アイコンクリック時に連絡先リストがポップアップします。[その他のオプション](#) の設定が可能です)



- (オプション) アクセス許可ダイアログの「その他のオプション」をクリックすると、現在選択中のユーザーがボックス内にリストされて表示されます。必要に応じてユーザーの追加と削除が可能です。必要なアクセス許可を指定して「OK」をクリックします。



- 「OK」をクリックして変更を保存します。文書が設定したアクセス制限で保護されます。

ノート: Foxit PhantomPDF はまた、Microsoft IRM Protection Version 2 もサポートしています。これにより、PDF 文書を PPDF 形式に暗号化することができます。Microsoft IRM Protection Version 2 の暗号化ポリシーには動的透かし、拡張ポリシー、動的撤回は含まれません。

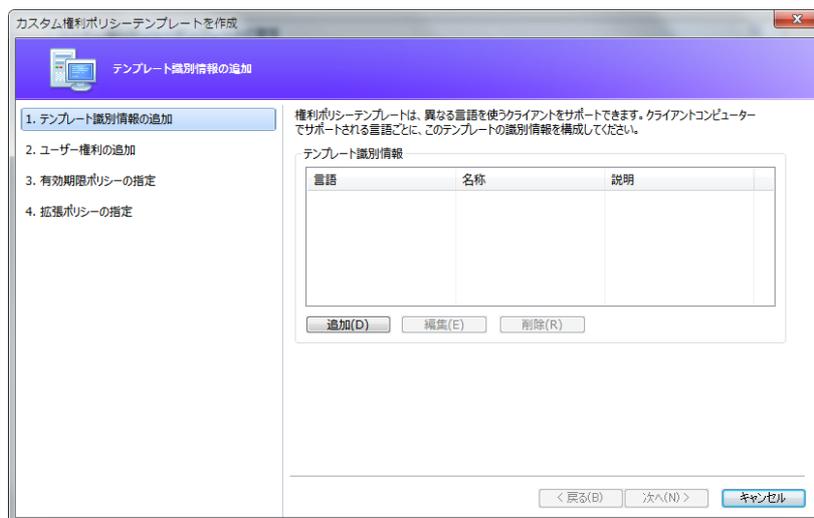
テンプレートの作成と編集

カスタムテンプレートを作成するには、下記の手順を実行します:

1. **保護 > 設定 > カスタムテンプレート** を選択します。



2. 「**作成**」 をクリックして、**カスタム権利ポリシーテンプレート**ダイアログを開きます (既存のテンプレートを編集する場合は、「**編集**」 をクリックしてください)。テンプレート作成では、4つのステップでカスタムの権利設定を行います。



3. 動的透かしの作成は 4 番目のステップで行います (拡張権利ポリシーの設定)。動的透かしを参照してください。

動的透かし

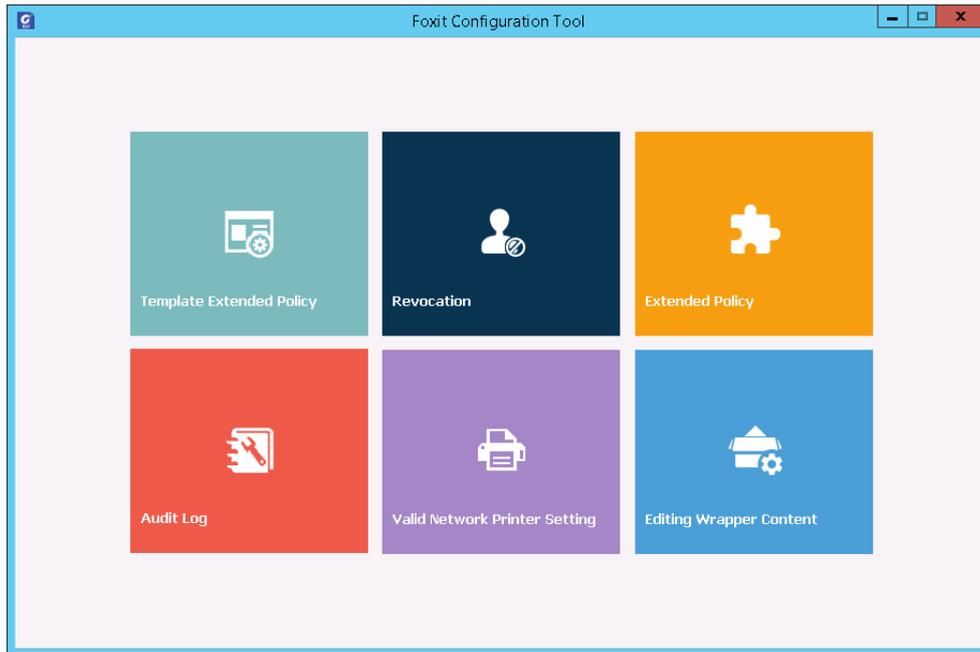
プロファイルの作成

透かしを追加する前に、プロファイルを作成する必要があります。適用はプロファイルのみ選択することができます。透かしの一つを選択して挿入するのではなく、同一のプロファイルの透かしが PDF に適用されます。

- **保護 > 設定 > 動的透かし** を選択します。
- 「**新規プロファイル**」をクリックしてプロファイルを作成、名前を付けます。
- テキストボックスに透かしのコンテンツを入力して、フォント、サイズ、色、下線、整列を設定します。
ノート: 透かしとしてテキストの設定のみ可能です。
- **ダイナミックテキスト**を選択します。PDF リーダーでファイルを開いたとき、その文書に動的に透かしの情報が表示されます。同時に複数のテキストを使用できます。
- **回転角度と不透明度の表示設定**が可能です。また**対象ページの相対倍率の設定オプション**も使用できます。
- **対象ページと透かし間での、垂直、水平距離の設定**ができます。
- **透かしの表示されるページ範囲**を選択します。サブセットのリストをクリックして、表示する範囲のオプションを選択できます。
- **右側ペインでプレビューを確認**できます。
- 「**OK**」をクリックして完了します。

Foxit Configuration Tool

Foxit PhantomPDF RMS Protector は、RMS サーバーのセキュリティ設定を手軽に操作できる管理者用の設定ツールを提供しています。管理者は各ツールの有効/無効の直接切り替え、公式テンプレートの拡張ポリシーの直接編集、アクセス権の動的な取り消し、監査ログの設定、有効なネットワークプリンターの設定、ラッパーファイルのカスタマイズが可能です。



署名について



デジタル ID

デジタル ID には 2 種類のキーが含まれています。1 つはパブリックキー（証明書）で、データの暗号化やロックに使用されます。そしてもう 1 つはプライベートキーで、暗号化されたデータの復号やロック解除に使用されます。

ユーザーは自分のパブリックキーを含む証明書を、自分の身元確認のため、または自分の署名を検証してもらうために、他のユーザーに送ることができます。プライベートキーだけが、そのユーザーの証明書（パブリックキー）を使用して暗号化された情報を復元することができますので、デジタル ID は安全な場所に保管してください。

デジタル ID は通常、パスワードで保護されています。コンピューターにデジタル ID を保管する場合は、PKCS#12 ファイル形式、あるいは Windows 証明書ストアに保存します。

Foxit PhantomPDF は Self-Sign デジタル ID を作成することができます。作成は以下の手順を実行します：

- 保護タブにある **署名と証明** > **署名を配置** をクリックし、署名する領域をクリックとドラッグで指定します。文書に署名ダイアログボックスで、「署名者」のリストから **新規 ID** を選択して、新規に作成します。

- Self-Sign デジタル ID の保存場所を選択します。
- Self-Sign 証明書を生成するときに使用する識別情報を入力します。
- 新しいデジタル ID ファイルの保存場所とパスワードを入力します。

文書に署名する

文書に署名する前に、署名を配置する署名フィールドの設定、デジタル ID の取得、そしてあなたの署名のデザインを決める必要があります。

- **保護タブにある署名と証明 > 署名を配置** を選択して、フィールドに署名します。

PDF に署名をすることで、ユーザーの承認を示すことができます。文書に署名した後は、署名は移動もサイズ変更もできません。また、PDF への署名は、二回以上おこなうことも、複数のユーザーが署名することもできます。文書に署名を実行すると、署名フィールドにその実行者の電子署名が表示されます。電子署名の外観は、選択したオプションによりそれぞれ異なります。

PDF 証明後の操作許可 (Business のみ)

作成者だけが、作成した PDF 文書を証明できます。作成者は証明後、文書にどのような変更を許可するか指定することができます。承認された変更が加えられても、証明は有効です。ユーザーが許可されない変更を行った場合、証明は無効となり後続のユーザーすべてに文書が不当に変更されたことが通知されます。

電子署名と文書に標準のタイムスタンプを追加

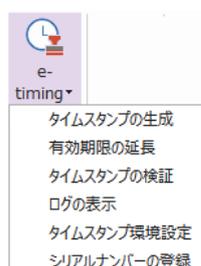
タイムスタンプは署名した文書の日付と時刻を明示するために使用されます。公平な第三者機関により提供されるタイムスタンプを使用することで、PDF 文書がいつから存在し、

その内容が現在まで変更されていないことを証明できます。Foxit PhantomPDF を使用することで、電子署名や文書にタイムスタンプを追加することができます。

電子署名や文書にタイムスタンプを追加するには、既定のタイムスタンプサーバーを設定する必要があります。ファイル > 環境設定 > タイムスタンプサーバー と操作して、既定のタイムスタンプサーバーを設定してください。設定後に文書に電子署名を配置するか、または 保護 > 保護グループ > タイムスタンプを追加 を選択することで、文書にタイムスタンプを付与できます。タイムスタンプサーバーの証明書を信頼済み証明書に追加することで、署名のプロパティに、文書に署名したタイムスタンプサーバーの日付/時刻が表示されるようになります。

信頼済み証明書にタイムスタンプの証明書を追加するには、署名のプロパティダイアログボックスの左下のある「タイムスタンプのプロパティ」をクリックしてください。タイムスタンプのプロパティダイアログボックスが表示されますので、「信頼済み証明書に追加」をクリックして追加できます。文書にタイムスタンプが埋め込まれている場合は、電子署名のナビゲーションパネルに表示されているタイムスタンプの署名を右クリックしてメニューから 署名のプロパティを表示 を選択すると、署名のプロパティダイアログボックスが表示されますので「信頼済み証明書に追加」をクリックして追加できます。

アマノタイムスタンプサービスによるタイムスタンプの追加



Foxit PhantomPDF 日本語版は、アマノタイムスタンプサービス 3161 と連携してタイムスタンプの生成、検証、そしてタイムスタンプの有効期間の延長が可能です。

Foxit PhantomPDF の初回起動時に、本タイムスタンプサービスのご利用規約が表示されます。規約に同意いただくことで、本サービスの利用を開始できます。

また、初めてタイムスタンプの生成を実行する際に、本サービスに必要な下記の二つのルート証明書を Windows 証明書ストアに保存します。通知メッセージの後に、証明書のインストールについて確認画面が表示されますので、「はい」をクリックしてインストールを実行してください。

- AMANO RootCA2 for TA/TSA
- Security Communication RootCA2

この機能により一年間、毎月最大 10 回まで本サービスによるタイムスタンプを無償利用

できます。無償利用で印影を付けた場合は「評価版」と表示されます。1 ヶ月に 10 回の回数制限を解除して一年間制限なく PDF へタイムスタンプを生成することもできます。詳しくは下記 URL の「有償サービス」をご参照ください。

<https://www.foxit.co.jp/products/foxit-phantompdf/amano-time-stamp#subscription>

アマノタイムスタンプサービスを利用したタイムスタンプを生成するには、以下の手順を実行してください：

1. **保護タブ > 保護グループ > e-timing** をクリックして「**タイムスタンプの生成**」を選択します。
2. タイムスタンプの印影のプレビューが表示されますので、ページ上の任意の場所に配置してクリックしてください。
3. ページにタイムスタンプが挿入され、タイムスタンプの情報が追加されます。

ノート：「**タイムスタンプの環境設定**」で **タイムスタンプの印影を表示する** オプションが無効の場合は、「**タイムスタンプの生成**」を実行すると文書に不可視署名としてタイムスタンプを追加します。

また、**e-timing** のメニューより下記を実行できます：

- ◇ **有効期限の延長**：アマノタイムスタンプサービス 3161 により生成されたタイムスタンプに対して、有効期間延長タイムスタンプを付与します。
- ◇ **タイムスタンプの検証**：実行すると署名のプロパティが表示され、アマノタイムスタンプサービス 3161 によるタイムスタンプ署名の検証結果を表示します。
- ◇ **ログの表示**：タイムスタンプの生成ログを表示します。
- ◇ **タイムスタンプ環境設定**
 - **動作設定** — タイムスタンプ検証後の結果表示や、タイムスタンプ追加時の文書の保存方法を設定できます
 - **印面設定** — 印影を表示するかどうか、またスタンプの表示方法についてオプションを選択できます。
 - **日時形式** — タイムスタンプの日時の形式を設定できます。

ノート：**ファイル > 環境設定 > 電子署名** の設定ダイアログで「**文書を開いたときに署名を検証**」のオプションが有効である場合、タイムスタンプの設定されている文書が開かれるたび、署名のプロパティが表示されタイムスタンプ署名の検証結果が表示されます。検証を実行しないようにするには、「**文書を開いたときに署名を検証**」のオプションを無効にしてください。

PDF サイン

PDF サイン機能により、自筆のサインを作成してページに直接追加することができます。用途ごとの署名の作成や、他の複雑な設定をする必要はありません。

自筆署名を作成して PDF に適用するには、以下の手順を実行します。

1. **保護タブ > 保護グループ > PDF サイン** をクリックすると、リボンツールバーに **PDF サイン** タブが表示されます。サインパレットの **+** をクリックするか、またはパレット右下の **☰** をクリックして表示される **サインを作成** をクリックします。
2. 「サインを書く」「ファイルを読み込み」「クリップボードから貼り付け」「サインをタイプ入力」から選択して、自筆署名や PDF サインを作成することができます。作成したサインはプレビューボックスで確認できます。
3. サインをクリックして選択すると、周囲に四角形が表示されます。ドラッグすることで配置場所を移動できます。四角形の右下のハンドルをクリックしてドラッグすることで、サイズを調整することもできます。
4. (オプション) **定義済みテキスト > 定義済みテキストを設定** を選択して、サインと組み合わせて使用するテキストを設定しておくことができます。タイプライターツールや定義済みテキストを使用することで、サインの作成者の氏名や会社名など定型のテキスト情報をすばやくサインに合わせて追加できます。サインを適用すると追加したテキスト情報も文書に統合され、改ざんを防ぎます。また、ユーザー情報として入力されたテキストが既定の定義済みテキストとして保存されます。
5. サインを右クリックしてメニューより **複数ページに配置** を選択すると、そのサインを他のページにも配置することができます。
6. サインを文書に適用するには、選択して四角形の上に表示された **▼** をクリックするか、サインを右クリックして表示されるメニューより **サインを適用** を選択します。**すべてのサインを適用** をクリックすれば、文書に配置されたすべてのサインを適用することができます。
7. **閉じる** **✕** ボタンをクリックして **PDF サイン** タブを終了します。

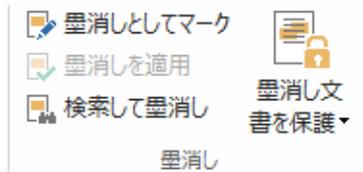
ノート: サインは一度適用すると、編集したり削除したりできなくなります。

作成したサインの管理操作は、以下を実行します:

PDF サイン タブにてサインパレット右下の **☰** をクリックし、メニューの**サインの管理** を選択します。**サインの管理** ダイアログが表示され、サインの作成、移動、削除、パスワードの設定を行なうことができます。

墨消し (Business のみ)

墨消し機能を使用すれば、他のユーザーに文書を利用できるようにする前に、文書から機密情報を削除する事ができます。最初に墨消しの対象とするテキストや図形にマークを付けて結果を確認し、それから墨消しを適用します。



ノート: この操作は元に戻すことができません。この操作により削除されたコンテンツは、適用を行った時点で完全に削除されます。このため、墨消しの操作を行う前に文書のバックアップすることを推奨します。

文書のサニタイズ

Foxit PhantomPDF は PDF からユーザーのプライベートな、または機密である非表示情報の削除をサポートします。一般的にメタデータ、埋め込みコンテンツ、添付ファイルスクリプトなどが含まれます。

PDF ファイルから非表示情報を削除するには、**保護タブ > 非表示データグループ > サニタイズ** と操作してください。

RMS 保護された墨消し PDF の作成 (*Business* のみ)

Foxit PhantomPDF は既存の PDF から、墨消しを適用し RMS 保護された PDF を作成することができます。許可されたユーザーは文書をすべて表示することができ、許可されていないユーザーには墨消しした文書を表示します。この機能によって、よりフレキシブルな文書の閲覧制御を可能にします。

RMS 保護された墨消し PDF を作成するには、以下を実行します:

- 墨消しとしてマークする

保護 > 墨消し > 墨消し文書を保護  を選択し、RMS サーバーにログインして RMS テンプレートを 選択し、文書を暗号化する

アクセシビリティ

Foxit PhantomPDF は、視覚障害などを持つユーザーの支援技術や情報へのアクセスを支援するアクセシビリティ機能を提供しています。リボン UI の**アクセシビリティ**タブのツールとアクセシビリティ関連のナビゲーションパネルを使用して、PDF ファイルのアクセシビリティのチェック、アクセシビリティの問題の修復、文書構造の編集、そしてアクセシビリティの環境設定を実行して PDF ファイルと機能をさらに利用し易くすることができます。



アクセシビリティタブ (Business エディション)

[アクセシビリティのチェックと修正](#)

[アクセシブルな表示とナビゲーション](#)

[アクセシブルな PDF の作成 \(Business のみ\)](#)

アクセシビリティのチェックと修復

完全チェックツールを使用して、PDF ファイルがウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン (WCAG) 2.0 に準拠しているかどうかチェックできます。どの種類のアクセシビリティ項目をチェックするのか、どのように結果を表示するのを選択可能です。チェックが完了するとアクセシビリティチェックのナビゲーションパネルが自動的に開いてチェック結果を表示します。パネルでは項目を右クリックしてメニューを選択してアクセシビリティの問題をどう扱うか、オプションを選択できます。

アクセシビリティレポートを表示するには、**アクセシビリティ > アクセシビリティチェック > アクセシビリティレポート**  と選択するか、またはナビゲーションペインから直接 **アクセシビリティレポート** のパネルを選択します。レポートには PDF 文書の名前、チェック結果の概要、チェックした各オプションの詳細なレポートが含まれます。詳細なレポートではチェックした各オプションのルール名、ステータス、説明が判り易くリストとして表示され、レポート内のリンクをクリックしてアクセシビリティの問題の修復についてのオンラインヘルプを参照することができます。

アクセシブルな表示とナビゲーション

Foxit PhantomPDF を使用すれば、文書の色、文書の表示と読み上げの順序を制御するアクセシビリティの設定を実行できます。加えて、視覚や運動に障害のあるユーザーが支援技術ソフトウェア/ハードウェアの有無に関わらず PDF を使い易く表示し、ナビゲーションに便利なキーボードショートカットを提供しています。

設定アシスタントを使用して、画面の案内に従いアクセシビリティの環境設定をおこなうことができます。読み上げオプションを使用すれば、現在の文書の読み上げ設定を変更し読み上げの順序や読み上げのモードを変更可能です。

リフロー表示を使用すると、開いているページのテキストをドキュメントペインの幅に合わせて一列ずつ表示させることができるので、拡大表示時やモバイルデバイスでも横方向にスクロールさせずに文書を読むことができます。PDF をリフロー表示するには、**ホーム > 表示 > フロー**または、**表示 > 文書表示 > リフロー** と選択します。

アクセシブルな PDF の作成(Business のみ)

スクリーンリーダーや他の支援技術ソフトウェア/ハードウェアの有無に関わらず、障害をもつ人が作業できるようにするために、アクセシビリティの規格には、検索可能なテキスト、画像やインタラクティブフォームフィールドの代替テキスト、読み上げ順序、文書のタグ付けなど、コンテンツや要素について定義されています。それらを実現するため、Foxit PhantomPDF は PDF やフォームフィールドのタグ付け、代替テキストの設定、タグの編集の機能を提供しています。

自動タグ文書ツールと**自動タグフォームフィールドツール**を使用すれば、すばやく PDF 文書とフォームフィールドにタグ付けできます。作成されたタグはナビゲーションペインの**タグパネル**で見ることができます。

PDF 内の図に代替テキストを設定する場合は、**代替テキストの設定**をクリックして実行できます。

読み上げ順序ツールは、PDF のタグの容易な編集を支援します。**読み上げ順序** をクリックして、**Touch Up 読み上げ順序**ダイアログの**ページコンテンツグループを表示**にチェックし、**ページコンテンツの順序** または **構造タイプ** のいずれかを選択してください。文書内に番号や構造タイプのラベルが付いてハイライト表示された領域が確認できます。タグを編集するには、ページコンテンツを四角形で囲って範囲選択したり、ハイライトされた領域の番号をクリックしたりして、**Touch Up 読み上げ順序**ダイアログからタグの種類を選択してください。また、ナビゲーションペインの**順序**、**コンテンツ**、**タグ**の各パネルを開いてより多くの操作を行なうこともできます。

お問い合わせ

製品についてのお問い合わせ、不具合等につきましては、下記までご連絡ください。

サポートサービスのご提供は、アクティベーション完了後より開始となります。ご質問の際はご利用環境 (OS、32 / 64bit) とレジストレーションキー、操作内容を詳しく明記して、下記までご連絡ください。

株式会社 FoxitJapan

〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-3 汐留芝離宮ビルディング 21F

Web:

<https://www.foxit.co.jp/>

お問い合わせフォーム:

<https://www.foxit.co.jp/contact>

Fax:

03-6800-5963